



アクセス



東京メトロ南北線・都営三田線

「白金高輪」駅 4番出口より徒歩3分

駐車場のご用意はございません。

ご面会の際は公共の交通機関をご利用ください。



患者さまが安心して入院生活および退院後の生活が送れるよう相談員がサポートします。

入院に関するご相談は地域連携室まで TEL.03-6456-3215

(地域連携室直通 受付 / 平日 8:30 ~ 17:30)

医療法人社団 峰至会

桜十字白金リハビリテーション病院

〒108-0072 東京都港区白金1丁目 2-3

病院代表番号 TEL.03-5421-0123

<https://sakurajyuji-shirokanereha.jp>



基本理念

philosophy

桜十字に関わる全ての人が幸せとなるモデルを全国へ

医療・福祉・予防医療を通じて「患者さま」「地域の方々」「職員」三者すべてが幸せとなるモデルを築き、全国に情報発信を行い、日本全体の地域医療の向上を目指します。



患者さまに対して

患者さまに提供する医療・介護サービスは、「確かな技術」に裏打ちされたものであり、「患者さま中心」に提供されるものである。その患者さまに療養の必要があるのであれば、その療養生活は、尊厳ある豊かなものでなければならない。



地域の方々に対して

医療・福祉・予防医療を通じて「患者さま」「地域の方々」「職員」三者すべてが幸せとなるモデルを築き、全国に情報発信を行い、日本全体の地域医療の向上を目指します。



職員に対して

桜十字の事業は、「医療人として成長したい」「人として成長したい」「社会に貢献したい」という思いを実現できる場を提供する。また、そこで働く者にとって、その仕事の社会的意義や、職場環境など自誇りに思える職場でなければならない。

基本方針

policy

「患者さま満足宣言」について

「桜十字で良かった」という信頼を獲得します。

スタッフが丸となって、患者さま中心の医療を実現します。

妥協のない清潔さと尊厳が保たれた環境を築きます。

患者さまの言外の希望をも自分のものとして受け止め、解決します。

優れた技術や知識を習得し、医療人そして、人として成長します。

笑顔を絶やさず、こころのこもった挨拶を心がけます。

「私がやらねば誰がやる」の精神で何事にも取り組み、進化・改善し続けます。

ご挨拶

message

院長

小森 博達

経歴

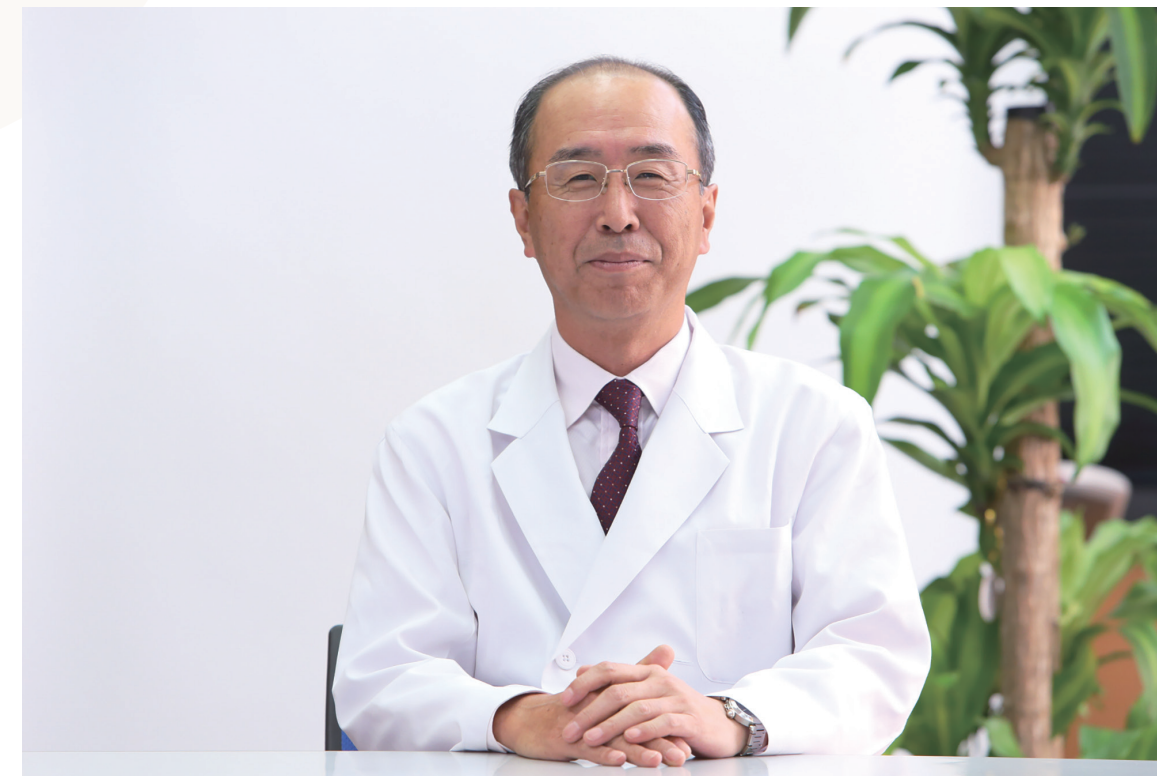
- ・東京医科歯科大学 医学部卒
- ・東京医科歯科大学 整形外科
- ・国家公務員共済九段坂病院 整形外科
- ・済生会川口総合病院 整形外科
- ・取手協同病院 整形外科 医長
- ・東京医科歯科大学 整形外科助教授
- ・横浜市立みなと赤十字病院 副院長

所属

日本整形外科学会
日本脊椎脊髄病学会

桜十字白金リハビリテーション病院は地下鉄白金高輪駅から徒歩3分、首都高速2号線天現寺ランプから数分という立地に、東京都港区初の回復期リハビリテーション病院として2023年4月に開院する運びとなりました。

回復期リハビリテーション病院は急性期医療機関での治療が終了した患者さまの機能回復、自宅退院、社会復帰を手助けするリハビリテーションを提供することを目的としており、超高齢化社会を迎えつつある中、欠くことのできない機能を有した医療機関となってきております。当院は近隣にある多くの急性期医療機関と密接に連携し、地域の皆さまに良質でかつ患者さま本人やご家族の個々のニーズに合わせたリハビリテーション医療を提供し、高い在宅復帰率を目指し、退院後も生活の質の維持・向上ができるよう、職員一同つねに進進する所存でおります。地域の方々や近隣の医療機関に信頼される病院を目指して努力していきますので、関係の皆さまのご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。



特徴

philosophy

個別ケアを重視した療養環境

お一人おひとりの身体状況に合わせた丁寧なサポートを考え、フロアを構成しました。
職種間の連携もしやすく、患者さまの目も行き届きやすい環境です。

4つの 取り組み

- 身体** 職員が一丸となって回復をサポート
- 精神** ご自身にとっての退院後の「幸せ」を満たす為のアプローチ
- 環境** 明るい自然光を取り入れた開放感のあるリハビリ室×充実のマシン
- 空間** 生命力に溢れた「五感」に訴える、空間体験と心地よい緑



リハビリ室

回復期リハビリテーション病棟の役割

回復期リハビリテーション病棟は、病いや怪我からの回復を優先する病棟です。病いや怪我は身体機能だけでなく、意欲や希望などの心理面にも色濃く影響致します。その為、低下した様々な能力の回復には、多面的なアプローチが必要となります。回復期リハビリテーション病棟は、多くの専門職を配置し、医学的、心理的、社会的な立場から包括的に回復をサポートします。そして心身の回復を最大限促し、ご自宅や社会へ戻り再び満たされた生活が営めるよう、集中的な支援を行います。なお、回復期リハビリテーション病棟では疾患毎に入院できる期間が定められています。 ※別表参照

回復期リハビリテーションを要する状態	算定上限日数
脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント手術後、脳腫瘍、脳炎、急性脳症、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷等の発症後若しくは手術後の状態又は義肢装着訓練を要する状態	150 日
高次脳機能障害を伴った重症脳血管障害、重度の頸髄損傷及び頭部外傷を含む多部位外傷	180 日
大腿骨、骨盤、脊椎、股関節若しくは膝関節の骨折又は二肢以上の多発骨折の発症後又は手術後の状態	90 日
外科手術又は肺炎等の治療時の安静により廃用症候群を有しており、手術後又は発症後の状態	90 日
大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は膝関節の神経、筋又は靱帯損傷後の状態	60 日
股関節又は膝関節の置換術後の状態	90 日

医療機器

medical equipment

退院後の生活をイメージして行うリハビリを通して
患者さまの潜在的な可能性にアプローチします。



クロスステップ
上・下肢協調性運動
全身運動

車椅子に乗った状態での有酸素運動が可能で、体力の向上に加え四肢の筋力強化が期待できます。アームとペダルが連動して動くため、片麻痺の方でも全身運動が可能です。



上肢用ロボット型運動訓練装置
Reo go-J

脳卒中等の患者さまの、麻痺側上肢の関節癒着・拘縮の予防、および関節可動域を改善することで、ADL・QOL向上を目指します。



筋力トレーニングマシン
HURマルチファンクション4X

両側同時、片側、左右交互での運動が提供できるため、筋力強化のみならず、すばやい動きのエクササイズ・協調性運動・有酸素運動など目的に応じて幅広く使用することが可能です。

その他 ・寄り添いロボット・InBody(インボディ)・トレッドミル・バイタルスティムプラス・IVES(アイビス)・レッドコード・POPO (ポポ)

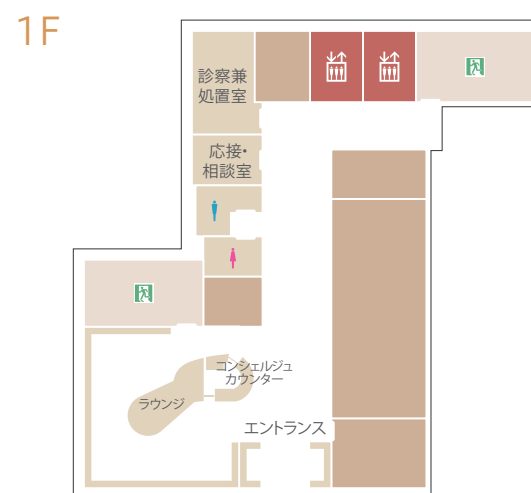
フロアマップ floormap

フロア全体で患者さまの生活を構成し
五感に響く居心地の良さを追及しました。



ラウンジ

revive again Aso×Lounge



ロビー

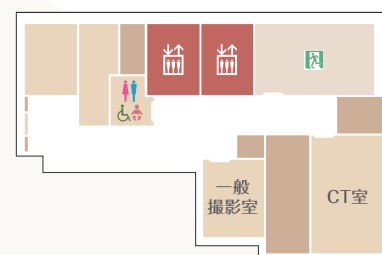
Lobby

Entrance



エントランス

B1F

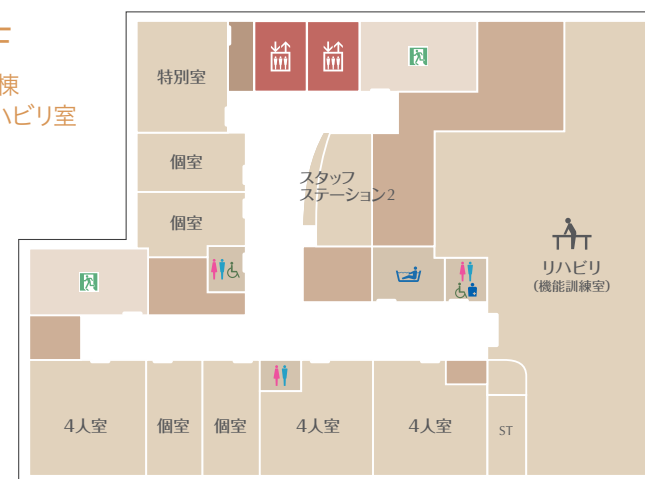


患者さまそれぞれの身体状況を想定し
お部屋づくりを考えました。(病床数 60床)

- ・特別室 テレビ/冷蔵庫/テーブル/チェア/トイレ/ソファ/ユニットバス
- ・個室 テレビ/冷蔵庫/テーブル/チェア/トイレ/シャワー(一部)
- ・4人室 テレビ/冷蔵庫/トイレ(一部)

※特別室・個室をご利用された際に発生する差額ベッド費用については、後日入院費のお支払いと一緒に請求させていただきます。
※患者さまの病状や他の入院患者さまの病状によって、ご希望のお部屋タイプをご利用いただけない場合もございます。
また、途中で病室を移動していただく場合もございますので、予めご了承ください。
※4人室では、おむつ使用の患者さま等、様々な状態の方との共同生活になる旨、予めご了承ください。

2F
病棟
リハビリ室



Rehabilitation
Room



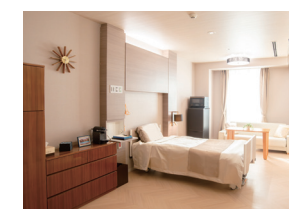
スタッフステーション



食堂兼談話室

3F
病棟

Living
Dining



特別室

4F
病棟



特別室

Private
room

お食事について

患者さまの治療において栄養状態はとても大切であり、リハビリの効果を最大に発揮するためには何より食べていただく必要があると考えております。一汁三菜を基本として見た目にも綺麗で飽きのこないお食事を提供し、患者さまに食べる喜びを感じていただけるよう、お食事作りに取り組んで参ります。

